

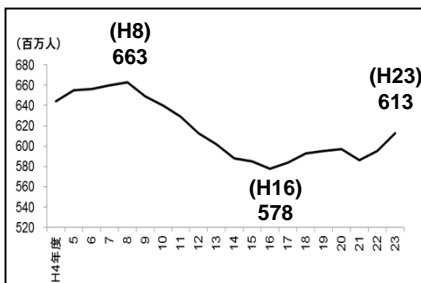


◆九州の鉄道会社では、平成16年の九州新幹線部分開通をきっかけとして、鉄道を観光目的とする「観光列車」を積極的に導入し、沿線地域と連携した観光客の誘致に注力。  
 ◆観光列車は、新幹線開業効果を新幹線沿線以外の地域へ波及させるとともに、観光資源の再発見・発掘に役立つとして、地元の期待は大きい。

観光列車導入の背景

○九州における移動交通手段は、マイカーや高速バスが主流で、鉄道需要は平成8年度をピークに減少傾向にあった。

九州の鉄道旅客数の推移



○こうした中、JR九州などの鉄道会社は、九州新幹線部分開通をきっかけとして、観光列車の導入による観光客の誘致に注力。

(出所:国土交通省)

観光列車の導入状況

○九州新幹線の部分開通以降、JR九州をはじめとした鉄道会社4社で11列車を導入。(現在計13列車運行)  
 ○観光列車の平均乗車率は、九州新幹線全線開通効果もあり、概ね好調を維持。(JR九州)

【主な導入列車】 (「列車名」欄の◎はJR九州運行)

導入年月	列車名	路線
H16.3	はやとの風◎	吉松駅～鹿児島中央駅
H16.3	いさぶろう・しんぺい◎	人吉駅～吉松駅
H21.4	SL人吉◎	熊本駅～人吉駅
H21.10	海幸山幸◎	宮崎駅～南郷駅
H23.3	指宿のたまて箱◎	鹿児島中央駅～指宿駅
H23.6	あそぼーい！◎	熊本駅～宮地駅
H23.10	A列車で行こう◎	熊本駅～三角駅
H25.3	おれんじ食堂 (肥薩おれんじ鉄道)	新八代駅～川内駅

(注)新幹線の部分開通はH16.3、全線開通はH23.3。

沿線地域と連携した取組

○観光列車は、沿線の自治体や観光協会、地域交通機関などとの連携のほか、地域住民の協力に支えられている。

◆A列車で行こう(JR九州)

○上天草の定期船「天草宝島ライン」が「A列車で行こう」と統一デザインで連結運航。天草では「周遊バス」が接続。  
 ○観光列車、定期船、周遊バスを利用した天草観光ツアーが増加。上天草市では、H23年に6年ぶりに宿泊客数が増加し、H24年においても前年を上回った。地域住民が率先して観光ガイドを行うなど、誘客に向けた積極的な動きがみられる。

A列車で行こう車内



天草宝島ライン



◆おれんじ食堂(肥薩おれんじ鉄道)

○H25年3月、肥薩おれんじ鉄道が“食とスローライフ”をテーマにした「おれんじ食堂」を導入。  
 ○アジアカエビなど旬の特産品にこだわった食事が沿線の提携レストランから食堂車にデリバリーされるほか、停車時に地元の特産品をホームで販売。  
 ○「おれんじ食堂」の運行により、県外客に地元特産品等売り込む機会が格段に増加しており、今後は駅を情報発信の拠点としたい。駅の改修も計画中。(阿久根市)

おれんじ食堂車内



全国でも高い注目度

「お気に入りの観光列車ランキング」BEST3

- 1位 ゆふいんの森(JR九州)
- 2位 北斗星(JR東日本)
- 3位 SL人吉(JR九州)

(日経トレンディH25年5月号)

※旅行会社、鉄道玩具会社、鉄道カメラマンなど鉄道に詳しい50名が投票

「いつかは乗りたい観光列車ランキング」BEST3

- 1位 ななつ星in九州(JR九州)
- 2位 しまかぜ(近畿日本鉄道)
- 3位 おれんじ食堂(肥薩おれんじ鉄道)

トワイライトエクスプレス(JR西日本)

課題・今後の動き

◆課題

○この人気を維持していくためには、引き続き、九州の自然、食、文化、歴史、伝説などの観光資源の発掘・活用、地域と一体となった取組が必要。  
 ○また、東アジアの玄関口といった地の利を活かした海外客の確保に向けた取組も欠かせない。

海外客を全体の2割まで引き上げることを目標に、韓国・台湾・香港・シンガポールなど東アジアを中心に営業を展開。(肥薩おれんじ鉄道)

◆今後の動き

クルーズトレイン **ななつ星 in 九州**  
 CRUISE TRAIN "SEVEN STARS IN KYUSHU"

○H25年10月から、九州を一周する豪華観光寝台列車「ななつ星in九州」が運行予定。九州をひとつの観光地として、地域の歴史や文化をつなぐ観光コース(1泊2日・3泊4日)を準備。  
 ○準備段階から県をまたいだ地域間の交流が盛んになっているとともに、運行を通じて、新たな観光資源を発掘できると期待。(JR九州)

○乗車予約の平均倍率は9.63倍と好調。最高倍率は、3泊4日コース「DXスイートA」(定員2名で1人55万円)の87倍(H26年1-3月出発分)。



ななつ星in九州イメージ

資料提供:JR九州、肥薩おれんじ鉄道、シークルーズ